

次期公共交通計画に関する考え方

令和7年11月12日

印西市長 藤代健吾

1. 次期公共交通計画の方向性

「抜本的な公共交通の見直し」に向けたスタートとなる5年間

- 下記の通り、増え続ける移動制約者に対して、事業者側ではドライバー不足や採算性の低下等もあり、特に、地域公共交通に関しては、現状の延長線上での施策では早晚対応が困難な状況を迎えているものと理解しています
- 路線バス・ふれあいバスはじめ既存の地域公共交通手段の再編と同時に、新しい公共交通手段（デマンド型）の活用なども積極的に進めていく必要があると考えています
- こうした中で、次期公共交通計画は、「抜本的な公共交通の見直し」に向けたスタートとなる5年と考えています

2. 現状認識(1) 地域間公共交通

さらなる利便性向上に向けた声

- JR 成田線では増便などの声が、北総線では更なる運賃値下げや印西牧の原駅へのアクセス特急停車や朝夕の特急増便などの声が寄せられています

(2) 地域公共交通

ニーズの増加（シニア、学生）に対して、現行の公共交通ネットワークでは提供に限界（利用者にとって）

移動制約者：シニアの方々

- 高齢者を中心に移動制約者が増加している中で、公共交通に対するニーズは年々高まっている状況です
 - 団塊の世代が後期高齢者となる中、免許返納後の高齢者の移動手段の確保がさらに大きな課題となっていきます
 - ニーズとしては、通院、買い物、お出かけ等が主目的
 - 今後、全市での課題となることが見込まれます
 - ☆ 自然豊かな地域を中心とする交通不便地域に加えて、JR 成田線沿線の高齢者が増える地域、千葉ニュータウン圏においても初期に入居された方々が多い地区など、全市において課題に
 - こうした中、地域を問わず、路線バス、ふれあいバスに対しては、増便やルート新設等の声が非常に大きい状況です

移動制約者：学生

- 最寄りの沿線以外の沿線に立地する学校（特に公立高校）に通学する学生の移動手段の確保が大きな課題となっています
 - 特に、印西においては南北に縦断する公共交通手段としては、路線バス・コミュニティバスに頼らざるを得ない状況です（電車を乗り換えての通学が困難）

(事業者側)

路線バス・ふれあいバス・タクシーともに、ドライバー確保や採算性の課題もあり、これ以上の増便・路線新設等は困難な状況と伺っています

路線バス

- 増便のニーズはあるものの、ドライバーの確保に加えて、通勤客などの利用客の減少、ふれあいバスとの路線重複が課題となっていると理解しています
- 一部の路線では、採算性が非常に厳しく、多額の補助が必要な状況です

ふれあいバス

- 増便やルート変更のニーズは高いものの、路線バス同様の状況と理解しています

タクシー

- ドライバーの確保が非常に大きな課題となっていると伺っています

3. 施策の方向性

(1) 地域間公共交通

- 事業者の皆さまと連携をしながら、更なる利便性向上を進める必要があると考えています

(2) 地域公共交通

- 既存公共交通網が抱える課題や制約を前提に、路線バス・コミュニティバスの再編やデマンド型交通を含む新たな交通手段の導入を通じて、特に移動制約者（シニアの方々・学生）が、通院・通学・買い物・お出かけニーズを満たせる公共交通網を構築することが必要と考えています

4. 各公共交通事業者の皆さまへ

改めての感謝

- 改めて、日ごろの市民の皆さんの公共交通の足を安心安全にご提供いただきありがとうございます
- 一方で、足下の事業環境は一層厳しいものになっていると伺っています
- こうした中で、今後、公共交通計画を策定し、新たな印西市の公共交通網の構築を目指しますが、利用者や市役所だけではなく、事業者の皆さまにとっても持続可能なモデルとすることを目指していきたいと考えています

計画は策定してからが本番

- 計画は実行されてこそ意味を成します。ぜひ、計画策定段階のみではなく、実行段階においても、対話と議論を通じて、事業者の皆さまや関係者の皆さまとともに、真に、持続可能で市民の日々の移動を支える新たな公共交通網を構築していきます
- 私自身も、各事業者の皆さまと経営レベルも含めてより積極的に対話・議論させていただけるように努力していきます

以上